

ために手段を選ばないその投稿者の抱える闇の深さを感じてしまったのです。その投稿者は2人とも士業の方で、調べればすぐに個人が特定されてしまうことは明らかであるにも関わらず、なぜこんなカッコ悪い話を世間に広めてまで自分の承認欲求を満たしたいと思ったのでしょうか？ アクセス数が増えたことによって、いくらかの収入が入ったのかもしれませんが。フォロワー数も増えたのかもしれませんが。しかし彼らがこれっぽっちの対価を得るために失ったものは、決して小さくはないのではないかと思うのです。

かつて日本のお侍サンは、自分の名誉を守るためなら切腹も厭わないくらいに自らのプライドを大事にしていたというのに、現代の士(さむらい)業の人にとっては1円にもならないプライドなんかよりもフォロワー数の方が大事なことなのでしょう。文化人類学者ルース・ベネディクトによれば、

わが国の道徳観は、世間様の目を気にして恥を知ることを土壌として培われてきたというのですが、恥も外聞もなく自らのプライドを貶めてでも世間様の注目を集めたいだなんて、古い価値観を持った私からすれば理解しがたい愚行にしか思えないのです。

何はともあれ、話を元の「男が奢るか論争」に戻しますと、どうやら世間の皆様は、相手と自分を「年齢」「所得」「性別」などを基準として、自分が奢る立場なのか奢られる立場なのかを判断をしていることが分かりました。確かにそれは合理的なやり方のようにも思えるのですが、そもそも相手と自分を比較してつてところあたりがセコイとは思いませんか？

「武士は食わねど高楊枝」という言葉があります。それは昔のお侍サンが見栄っ張りだったということではなく、貧乏をしていてもそれを表には出さずに気品高く生きた武士の美徳を表

した言葉なのです。もしも私たち日本人がそんな彼らの子孫としてのプライドをまだ少しでも持ち合わせているのであれば、相手が自分より上であれば、「カネなら俺が払うぞ」とカッコつけたって良いではありませんか。でも、そんなことをコスパだ！ タイパだ！と言っている若い人の前でおうものなら、「いつの時代の話だ？」と一蹴されてしまうってことくらい、私だつて分かっていますけどね。



Akira Saito

昭和40年生まれ。神奈川県出身。平成15年登録(東京支部)。齋藤明所長・日本経管会人研水会「波乗り」の愛犬「太郎」は異常なまでに怖がり、雷が鳴ると怖くなって、網戸をかき破って外に逃げた。網戸が破れて私は網戸の修理ばかりしていました。

【近況】我が家の愛犬「太郎」は異常なまでに怖がり、雷が鳴ると怖くなって、網戸をかき破って外に逃げた。網戸が破れて私は網戸の修理ばかりしていました。